

## 取引先の格付

コノサーでは、三井物産グループで培った「企業の財務情報に対する分析・定量化ノウハウ」をベースとし、財務情報を基に統計的な手法を用いて算出した『対象取引先の注意レベル』に関する指標を提供しています。

収益性・効率性・流動性・安全性・成長性・そして規模を示す指標の中から複数を選んで使用しており、取引先の注意レベルの高低を表しています。

格付は、財務情報を定量的に評価して算出する“客観的な指標”のため、コノサーのチェックシートを利用した分析（分析者の目を通した個別分析）との組合せでの使用を推奨しております。

（企業全体を俯瞰して見た場合の相対的な評価と、個社に寄り添った個別の評価の2軸でバランスよく評価することができます。）

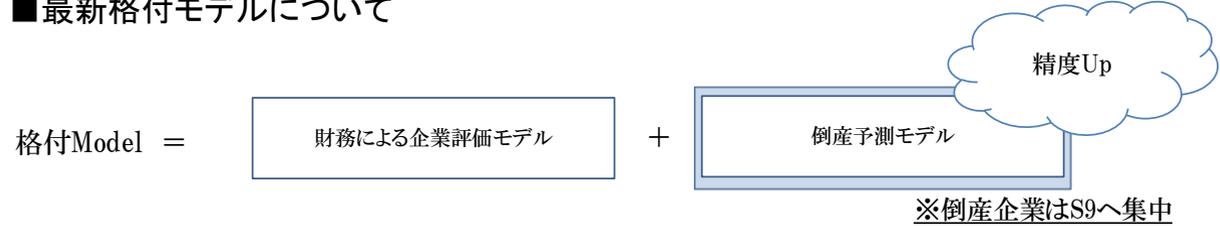


- ※当格付は、会員より預託される財務情報に基づいてのみ算出されるものであり、三井物産株式会社および三井物産クレジットコンサルティング株式会社が独自に収集した情報等は考慮されておりません。
- ※格付の算出結果は、会員より預託される財務情報の開示の程度、正確さ、新しさに依存します。
- ※当情報の提供主体は三井物産クレジットコンサルティング株式会社であり、情報の提供に関して、三井物産株式会社及び三井物産グループ各社は関係しておりません。

# MCC格付の特徴

- ・三井物産が30年にわたりブラッシュアップしてきた信用格付ロジック（統計的手法により算出）を活用
- ・上場企業から中小企業まで、過去10年間の定量データを利用
- ・格付毎に倒産統計を実施し、実データに基づく倒産確率を算出
- ・数年のタームごとに格付モデルの見直しを行い、倒産予測精度を更に向上

## ■最新格付モデルについて



### 【概要】

財務による企業評価モデルにおける財務の安全性、収益性、効率性などのバランスに加え、倒産予測部分において高精度モデルを組込んでおり、企業評価の感覚と倒産判別における危険度を併せ持つ格付Model。

### ■格付に使用している財務指標

- 収益性（売上高営業利益率、経常収支比率など）
- 効率性（総資本回転期間、売上債権回転期間など）
- 流動性（流動比率系、キャッシュフロー÷負債など）
- 安全性（自己資本比率、負債比率など）
- 成長性（純売上高増加率、各種利益増加率など）
- 規模（自己資本合計、売上高など）

MCC格付	区分	定義内容
S1	超優良	財務内容開示先で、規模・財務内容が極めて優良な企業群
S2	優良	財務内容開示先で、規模・財務内容が優良な企業群
S3	良好	財務内容開示先で、規模・財務内容が良好な企業群
S4	標準1	標準企業の中でも、財務内容が良好な平均的企業群
S5	標準2	標準企業の中でも、財務内容が比較的良好的な企業群
S6	標準3	要注意企業群には入らないが、動向注視が必要な企業群
S7a	注意1	注意を要する企業群
S7b	注意2	十分注意を要する企業群
S7c	注意3	多大の注意を要する企業群
S8a	懸念1	財務内容・CF面で懸念を要する企業群
S8b	懸念2	財務内容・CF面で十分懸念を要する企業群
S8c	懸念3	財務内容・CF面で多大の懸念を要する企業群
S9a	警戒1	S9bの企業群より優るが、財務内容・CF面で十分に警戒を要する企業群
S9b	警戒2	財務リスクが高い先で、特に警戒を要する企業群
S9c	問題	債務超過、またはそれに準ずる極めて財務リスクが高い企業群

(\*) CF: キャッシュフローの略字